



毎日を丁寧に生きる

吉村 咲子

フィリピンのバタンガス州クエンカ町のビニールハウスの下で育つ、野菜。JICA 海外協力隊によって、野菜栽培の技術がフィリピンの人々に伝わり、今こうして目の前に種から芽が出た野菜がある。これらの一つ一つの芽がこうしてフィリピンの土から芽を出すまで、どんな道のりがあったのだろう。この野菜が育つまでに、日本とフィリピンの気候、土質、肥料といった条件の違いを乗り越え、多くの挑戦があったことは、農業について詳しくない私ですら容易に想像できる。JICA 海外協力隊員さんの農業のノウハウ、そして野菜の素晴らしさを伝えたいと思う熱意が、目の前の野菜の生命を産んだ。

JICA フィリピン研修を通して、一人の勇気と行動が集まることで、大きな変化が生まれることを学んだ。JICA 海外協力隊員の活動も、たった一人の行動に見えるが、一人の協力隊の2年間の活動がたくさん積み重なって、10年、20年後に「ああ、変わったなあ」と目に見えて変化に気がつく。JICA が行うフィリピンのパッシング・マリキナ川河川改修事業も同様に、建設会社、そしてフィリピン人と日本人、一人一人の力が合わさって護岸工事が着実に前進している。

一粒の種から芽が出て、野菜が育ち、私たちの食卓に届くように、未来をつくるためには、日々の一人一人の小さな努力と情熱が不可欠である。私たちが今まく種も、未来を創り出す一助となる、そう強く私は信じている。